

# 月刊ウィーン

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊31年目 Nr. 360

# GEKKAN-WIEN 2019年10月号

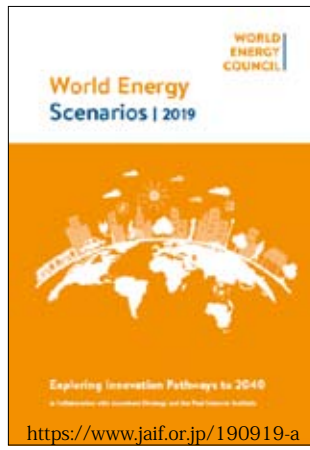






# 杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 93

世界のエネルギー問題や重要課題を研究・分析し、各国の政策決定者に助言や報告を提供している非営利の民間組織「世界エネルギー会議」は九月九日、「世界エネルギー・シナリオ」の二〇一九年版を公表した。副題は「原子力の将来…エネルギーの移行における多様なハーモニー」、二〇六〇年までに世界のエネルギー展開が迫ると思われるシナリオ全てにおいて、原子力発電が拡大すると予測。「大いなる移行」と称されるエネルギーの再構成に対し、様々に異なる関わり方をすると指摘している。



報告書によると、世界全体で主要なエネルギー源が移行していくペースと方向性は、一層幅広い世界規模の発展の一部を成しており、「大いなる移行」は、新たに到来するデジタルでエコロジカルな生産性の時代への対応として、根本的な社会経済の変遷も暗示している。原子力の将来に関しては「世界の将来的なエネルギー・ミックスの中で主役を演じるとともに、持続可能な開発に対しても貢献するとの認識が広く高まりつつある」と指摘、原子力発電の今後の拡大や、世界的エネルギーの移行の中で果たす役割は、数多くの要因から影響を受けることになる。

原子力に関する見通しが多様なことから、エネルギー関係の要人から原子力産業界の将来に関する洞察を収集。前回の報告書と同じく、信憑性の高い開発の方向性シナリオとして、以下の三種を提示した。

「モダンジャズ・シナリオ」…数値的な混乱が生じる技術革新的かつ市場牽引型の世界を想定。原子力産業界は原子力の販売よりも関連サービスの提供に再投資を行う可能性がある。新興国や大規模な原子力発電国のいくつかで設備の拡大が見込まれるため、原子力は依然としてエネルギー選択肢の一つに留まるが、世界の総発電量における原子力シェアは、二〇二五年の二一%から二〇六〇年には八・五%に低下。ただし、設備容量は、二〇一五年の四億七千万kWから二〇六〇年には六億二千万kWまで拡大。

「未変成交響曲シナリオ」…低炭素を将来に向けた展望とともに、一層の調整が加えられた持続可能な経済成長モデルが出現。原子力は、地球温暖化防止への緊急対応が可能な信頼性の高い適正価格の電源として広く受け入れられ、発電シェアは二〇六〇年までに十三・五%に増大。設備容量も現在の約三倍の十億三千万kWに拡大。新規原子炉の建設と既存炉の運転期間延長に加えて、小型モジュール炉や海上浮揚式原子力発電所、第四世代原子炉といった新たな原子力技術が世界の原子力発電設備に大きく貢献。「ハードロック・シナリオ」…世界経済の成長が長続きせず、各国政府による内向き思考の政策の結果を反映したシナリオで、原子力発電シェアは二〇六〇年までに十二・五%に増加。一方、設備容量は七〇%増の約七億kWに増大。これは新興国の新規建設市場と先進経済国における既存炉の運転期間延長が主な分野となる。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の蚤のみの市について述べる。ウィーン中心部のカールスプラッツ駅から徒歩五分ほどにあるナッシュマルクトは、世界各国の食材が並び、オシャレなレストランが立ち並ぶ市内最大の市場であるが、ここに隣接する場所です毎週土曜日に蚤の市が開催されている。今やウィーンの名物的存在であり、世界中のアンティーク好きから注目

されるフリーマーケットである。食器類、陶器、靴、古着、人形、古い家具、古書、絵画など、ぎっしりと並べられた商品の中には、骨董品からガラクタのように見えるものまで置かれており、ちよつとしたお宝さがしの気分を味わうことができる。超高価なものはないが、気に入ったものが見つかったら、必ず値段交渉するように地元の人からアドバイスを受けた。

一方、京都では、東寺の弘法市（毎月二一日）や北野天満宮の天神市（毎月二五日）のように、縁日として長い伝統があり、業者を中心に千店を越える店舗が軒を連ね、数万人以上の人々が訪れる全国的に知られる京都を代表する市がある。他方、比較的最近始まった蚤の市も、知恩寺、上賀茂神社、平安神宮、上御霊神社、御所八幡宮、西本願寺、豊国神社、醍醐寺など市内の寺や神社で開催されていることが多い。例えば、知恩寺「手作り市」（毎月一五日）、上賀茂手づくり市（第四日曜日）、平安楽市（毎月第二土曜日）では、作家作品を主体に、雑貨から服飾、食べ物などさまざまなジャンルの店が数百軒出店している。いずれの蚤の市でも、市民ばかりでなく観光客にも人氣が高く、何も買わずとも歩いているだけで楽しいのが共通している。

入後に蚤の市に良く寄った。家内は靴やネックレスを購入している。京都では京大近くの百万遍知恩寺の「手作り市」を何回か訪れた。両市の蚤の市にまつわる話を紹介できた幸運に感謝しつつ、編集部撮影をお願いしたナッシュマルクトの蚤の市の写真掲載させていたたく。



余談であるが、ウィーン駐在時にはナッシュマルクトで食材購入した。

■ 杉本純 元京都大学教授  
元原子力機構ウィーン事務所長

杉本純の原子力の話 II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています：<http://wattandedison.com/Sugimoto.html>

